

平成18年度 第2回幹事会議事録

能代高校東京同窓会

日時：平成18年4月28日（金） 18:35～20:10

場所：築地社会教育会館 3階 第三洋室
東京都中央区築地4-15-1

出席：出席者 29名

山縣輝輔24・畠山信孝26・佐々木章26・後藤信義27・太田勝治29・
宮腰興紀29・関根市男29・熊谷幸夫30・高田政勝32・西川廣正34・
干場革治35・横田真理子35・深井学36・豊嶋誠38・大塚進39・菅原涉39・
小河範也41・庄内俊憲44・森岡雅信44・三浦洋45・真崎裕45・石井喬46・
吉田真由美46・斉藤靖雄46・片谷浩之49・松永京子49・淡路和子55・
大高忠勉62・小野立67

議事録署名人：宮腰興紀29・三浦洋45

議事録作成者：吉田真由美46

1．会長挨拶

太田勝治会長より「総会では150人を目標にたくさんの人を集めたい」との挨拶があった。

2．新しいメンバーの紹介

後藤信義、横田真理子、深井学の3氏が紹介された。

菅原涉幹事長が議長を務め、幹事会の議事に入った。

3．報告事項

菅原幹事長が今年度行われた行事の報告と今後の予定に付き説明をした後、これまでの常任幹事会や各委員会で話合われ決まった事を以下のとおり報告した。

ブログ「いつかの同窓会」がスタート。若い人や女性にとって同窓会が身近なものとなるようにという趣旨である。

能高五日会、能球会を東京同窓会下部組織とする。そのほうが各方面にアピールしやすい。ただし活動については何ら制約を設けないで各会ごとの自主活動とする。

総会に初めて出席する者の特典として、初年度にかぎり年会費を無料にしたい。これについては、後ほど審議したい。

初参加者に対するフォローを工夫する。具体的な方法、担当者も考えておく必要がある。

総会においては今年度も当番期を設ける。当番期は28期、38期、48期。
当番期は、同期に積極的に参加を働きかける。また、初参加者や若い人をフォローする役割も受け持つ。

総会に際しては今年度も講演会を行う予定で考える。食事開始時間が遅くなるが、あらかじめ案内して混乱を防ぐ様にする。講演会講師の人選が課題。

東京同窓会の交流範囲は本校の同窓会、市内各高校の東京同窓会、秋高連總會とする。各ふるさと会は個人の資格で参加することとし、掲示板やメーリングリストでふるさと会の情報を流すという形で協力する。

交流の際の参加費は、参加者が負担する（会からは助成しない。ただし経理上は参加者からの寄付の形にして決算報告書に明記する）。
なお、本校および本校同窓会への行事参加の場合は交通費として1名につき2万円を支給する（原則2名まで）。

地元紙への年賀挨拶広告は今年度も継続する。東京同窓会の行事や活動内容を記事でとりあげてもらう様な工夫をするなどメリットを考える。

今年度も会報誌を発行する。発行時期は総会1か月前を目標。将来的には通信費削減のため紙の媒体を減らしていきたい。

議長は以上の報告内容につき質問を求めたが特に無かったので、この内容で承認を求めたところ、満場一致で承認された。

4．審議事項

初参加者に対する年会費免除について
組織委員会から、年会費は免除せず懇親会費を免除あるいは減額するという対案が出されたが、審議の結果、初回参加者にかぎり年会費3,000円を免除することに決定した。

夫婦とも同窓生の場合の年会費一人免除（世帯割り引き）について
年会費一人分を免除（世帯割り引き納入）することが承認された。
*東京同窓会では1923名中で約30組がこれに該当するが、今年の総会出席者は2組である。

同窓会だより（仮称）の発行について
「総会出席者の構成比率・年度別推移、総会出席者の男女別推移表、2005年総会出席者の年齢別構成などの資料が随時メーリングリストで配布されているが、メールが使えない会員にも同様のサービスができないか」という趣旨の提案がなされた。
過去5年間の年会費納入者241名（毎年納入の人も1名、5年以内に1回だけ納入の人も1名としてカウントした総数）のうちメールのない会員は146名であることが報告され、審議の結果、予算の関係で東京同窓会員全員に送付することはできないが会費納入者でメールが届かない会員には資料を郵送することに決定した。
具体的な作業と頻度については、今後の課題とする。
なお審議の過程で、総会案内に対する反応（総会出席・欠席連絡あり・欠席だが会費納入）が全体の20%程度（一度でも反応があった人の5年間の総数。重複者は1名として計算）であることが判明し、これについても分析および対策の必要があるとの意見が出された。

5．決算報告

淡路和子財務委員から2005年度の決算報告がされ、承認された。

6．その他

「江田島海軍兵学校」研修旅行について、企画者である関根市男副会長から説明と参加の呼びかけがされた。

石井喬能球会代表幹事から、4月5日に行われた第21回能球会の報告と、今後の会への参加要請があった。

宮腰興紀組織委員長から、総会の講演会の人選と懇親会のイベント内容に関しては、予算を伴うケースがあるので、どの程度の予算をだせるのかとの質問が出た。従来の例だと、およそ5万円位だったのではとの意見も出たが、東京同窓会の現在の財務状況から要望額のような新たな出費は難しいのではないかと、今後再度検討する事になった。また、新卒者の招待について提案がされたが、過去の例などから必要ないのではないかという意見が出た。イベントについては、三浦洋広報副委員長から、同窓会以外の人でよければ心当たりがあるとの発言があり、検討することとなった。

松永京子幹事から、ブログ「いつかの同窓会」の閲覧とコメント参加の呼びかけがされた。

7. 閉会のことば

高田政勝副会長から、「同窓会に参加した人に楽しいと思ってもらえる様に努力する必要がある」とことと「前期幹事会での討議内容と大きく変貌を遂げて、内容の濃い幹事会になっている」との発言があった。

以上で審議はすべて終了し、議長は閉会を宣した。
上記の決議を明確にするため、議長及び議事署名人はこれに署名する。

平成18年4月28日

議 長 幹事長 菅 原 涉

議事録署名人 組織委員長 宮 腰 興 紀

議事録署名人 広報副委員長 三 浦 洋